巻 頭 言

信州大学医学部と共に歩み続ける信州医学雑誌

信州医学会会長
信州大学医学部長
中　山　　淳

本年，信州大学医学部は昭和19年にその前身である松本医学専門学校の開学から数えて75周年を迎えます。その信州大学医学部のスクールジャーナルとして本学部と共に歩み続ける信州医学雑誌は，その発行母体である長野県医学会（昭和46年には現在の信州医学会と改名）設立の翌年，昭和27年に創刊されました。従って，本年は創刊67年目になります。この間，この伝統ある信州医学雑誌は一度も途切れることなく，毎年定期的に発刊されてきました（図１）。これも一重に論文を投稿して頂きました会員の皆様，歴代並びに現編集委員・編集事務の皆様のお陰であり，この場をお借りして御礼申し上げます。

さて，信州医学雑誌の発刊意義は信州大学医学部の卒業生や教員など約1,100名の会員から投稿された医学・医療に関する学術論文を掲載することで，会員相互の情報交換を行う場を提供することです。私は平成10年から平成30年までの約20年間，編集委員として信州医学雑誌の編集に携わってきました。この間に様々な改革がなされてきましたので，ここにその代表的な取り組みについてご紹介したいと思います。なお，それ以前の本誌のあゆみについては，「信州大学医学部五十年史」に千葉茂俊先生による詳細な記載がございます。

先ず，平成14年には信州医学雑誌創刊50周年記念事業の一環として信州医学会賞が新設されました。この賞は信州医学雑誌に掲載さ

第1巻（昭和27年）　第16巻（昭和42年）　第28巻（昭和55年）　第50巻（平成14年）

図１　信州医学雑誌の表紙の変遷

れた原著論文と症例報告の中から，医学・医療の進歩に寄与する顕著な論文をそれぞれ１編ずつ，編集委員による厳選な審査により選定するものです。受賞者には信州医学会総会で表彰され，賞状・賞金が授与されます。平成30年までに37名（原著論文　18名，症例報告　19名）が受賞されています。なお，第１回から第10回までの受賞論文は「信州医学雑誌創刊60周年記念誌」として発刊されました。

次に平成21年からは英文論文も受理することとなりました。当時，英文論文を載せるべきかどうか，侃々諤々の議論がなされましたが，英文論文を受理するという英断がなされ，当初１編であった英文の原著論文は，その後徐々に増え，平成30年には15編となっています。また，このことと関連し，同じ年の平成21年には信州医学雑誌に掲載された英語の原著論文が信州大学大学院医学系研究科（現在は大学院総合医理工学研究科）の学位論文として公式に承認されました。そして，平成30年度までで信州医学雑誌に掲載された英文の学位論文数は26編にも上ります。

平成22年には（独）科学技術振興機構（JST）が運用するJ-STAGE上に公開され，完全なオープンアクセス化が実現しました。現在は第52巻以降に信州医学雑誌に掲載された全ての論文が閲覧可能となっています。私は当時，編集委員長であったことからJSTまで出かけ，信州医学雑誌の意義を説明させて頂いたことを今でも良く憶えております。

この様な一連の改革により，信州医学雑誌への投稿数（綜説を除く）は平成20年度の16編から平成30年度には30編と，この10年間で飛躍的に増加しました。このことは，編集に携わってきた者として大変嬉しく思っております。

信州医学雑誌の平均査読期間は約３週間と早く，また掲載料も１ページ1,000円とリーズナブルです。信州医学雑誌が信州大学医学部のスクールジャーナルとしてこれから益々発展するよう，会員の皆様におかれましては，是非これからも信州大学医学部並びに連携病院で行われている医学・医療に関する優れた論文を，信州医学雑誌を通じて発信していただきたくお願い申し上げます。

最後に執筆の機会を与えて頂きました編集委員長の杠 俊介教授，資料収集にご協力頂きました事務局の矢羽ちゆきさんと三澤通子さんに深謝申し上げます。

（信州大学医学部分子病理学教室教授）